

令和8年度学校経営計画書

学 校 名 三次市立青河小学校

校 長 名 谷川 佳万

I 学校の状況

学級数	5	児童・生徒数	16	教職員数	9
メールアドレス	aoga-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/aoga/				

II 学校教育目標

ふるさとを愛し、高い志をもつ児童の育成

〔めざす児童像〕

①自ら進んで学ぶ子ども【知】

学習意欲（探究心）の向上 思考力・判断力・表現力の育成

②自他を大切にする子ども【徳】

自己指導能力の育成 規範意識の醸成 良好な人間関係の構築 郷土愛の育成

③心身ともに健康な子ども【体】

体力（耐力）・気力の育成 安全管理の充実 健康教育・食育教育の充実
教育相談の充実 安全を守る力の育成（防災教育の充実）

〔育成をめざす資質・能力〕

①主体性

②表現力

③協働性

〔研究主題〕

自分の考えを数学的に表現する子どもの育成

III 使命・存在意義（ミッション）

ふるさとへの郷土愛を育むとともに、なりたい自分の夢や志の実現のために、変化に対応して生きる力を身に付けた人材を育成する。

- 社会の中で自律して生きる力を有した知徳体バランスのとれた子どもを育成する。
- 自分やふるさと青河に自信と誇りをもつ子どもを育成する。
- 小中一貫教育の推進
⇒ 自分の考えを数学的に表現するための授業づくりについて研究推進する。
- コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働して子どもを育む。
(青河小学校で学んでよかった、青河小学校で学ばせてよかったと思える学校づくりの推進)

〔めざす学校像〕

①安全・安心に過ごせる学校

②子どもが生き生きと活動する学校

③保護者・地域と連携・協働する学校

IV 重点事項（努力点・資質能力を育成するために）

児童に身に付けたい資質・能力について

①主体性

- ・課題設定や評価を工夫することで、児童の意欲を高め、学力の向上につなげる。
- ・PBLの単元開発をして、「探究する力」を意識した授業づくりをする。
- ・「振り返り」から本時の内容につなげ、児童が学習の見通しをもった授業展開をする。
- ・自己決定させる場を設定するようにする。（名札カードを板書で利用）
- ・挑戦することを積極的に促し、できることを増やすとともに、がんばったことを表彰する。

②表現力

- ・理由を付けて考えを説明したり伝えたりできるようにする。
（ナンバリング、結論⇒理由説明、思考ツールの活用）
- ・場に応じた話し方や声の大きさと話ができるようにする。
- ・互いのよさを認め合い、共感的な人間関係の形成を図る。

【あおがっ子3大パワー】

行事や各種取組において、
目標設定や振り返りで常に
意識させていきましょう。

③協働性

- ・対話により合意形成を図る授業づくりをする。
- ・他者と協働して、学びや行動を調整し、筋道立てて考えながら課題解決にあたる。
- ・情報を整理する必要がある問題提示の工夫をする。
- ・ICTの活用（ロイロの他、グーグルスプレッドシートの利用）
- ・一人一人の役割意識を明確にし、自己存在感を与える。

学校・家庭・地域が共通の目的で教育活動を行うコミュニティ・スクールについて

- ①「Let's」の意識で取組を推進
- ②学校運営協議会・地域学校協働活動の実働
- ③家庭・地域とともにある学校の実働

V 中心価値・行動規範

「教育の原点」＝「子どもたちは私たちの姿を見て育つ」を常に意識して行動する。

〔めざす教職員像〕

- ①子どもの命を守る教職員
- ②教育への情熱をもった教職員
- ③研修と修養に努める教職員
- ④組織的に職務を遂行する教職員
- ⑤保護者・地域と連携・協働し、信頼される教職員

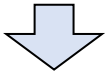
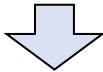
〔行動規範〕

- ①児童は私たちの姿を見て育つことを自覚し、教職員としての使命を果たすために自らの人間性と専門性を高める努力を続ける。
- ②法令・法規を遵守して職務に専念する。
- ③研修を重ね、積極的に挑戦する意欲をもち、専門性を磨き続ける。
- ④「報告」「連絡」「相談」「確認」を大切にし、組織的に職務を遂行する。
- ⑤地域の教育力を生かし、保護者・地域と連携・協力し、信頼される学校づくりを行う。

※不祥事根絶のための行動

- ①交通安全を常に意識し、交通ルールを遵守する。
- ②教育公務員としての立ち居振る舞いをする。
- ③危機管理意識を高める。
- ④体罰・セクハラを絶対にしない。

VI 現状分析

	プラス要因	マイナス要因																				
内部環境	<p>S (強み)</p> <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は協力的であり、組織として業務遂行することができる。 ・小規模校のよさを生かし、個別最適な学習支援をすることができる。 <p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は素直で明るい。 ・助け合って生活しようとする風土がある。 ・学力は個人差があり、平均を切る。理科はよい。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">全国学力・学習状況調査</th> </tr> <tr> <th>R7</th> <th>国</th> <th>算</th> <th>理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本校</td> <td>61</td> <td>56</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>市</td> <td>69</td> <td>59</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>66.8</td> <td>58.0</td> <td>57.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に対して協力的であり、学校アンケートで肯定的な評価をいただいている。 ・参観日の参加率は9割を超える。 		全国学力・学習状況調査			R7	国	算	理	本校	61	56	74	市	69	59	59	国	66.8	58.0	57.1	<p>W (弱み)</p> <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童数減少による多様な意見交流が難しい。 ・職員数が少ないため分掌の負担が大きい。 <p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数集団の中で、声を張らなくても意思疎通できるゆえに、声が小さい。 ・学力の個人差があり、個別支援を要する児童がいる。 ・自己肯定感が全国平均より低い児童は、26.6% (4人) いる。 ・新体力テストは、概ね全国平均を上回っている。
	全国学力・学習状況調査																					
R7	国	算	理																			
本校	61	56	74																			
市	69	59	59																			
国	66.8	58.0	57.1																			
外部環境	<p>O (支援的要因)</p> <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や諸団体の協力を受けて学習を行うことができる。 青河自治振興会、青少年育成町民会議、JA三次西支所、読み聞かせボランティア、交通安全協会 等 ・自然・歴史・文化・産業が身近にあり、学習素材や人材が豊かである。 <p>【市教委・県教委】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的配置や予算措置 特別非常勤講師等の配置 ・学習指導に係る相談や指導体制の確立 	<p>T (阻害的要因)</p> <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の減少 ・児童数の減少 <p>【社会情勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気不良による予算の減少 ・物価の高騰 ・将来を見通せない不安定な状況 																				
 ↓ 																						
<p>取組の重点 Point</p>																						
<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域が協働して児童を育成する。 ・地域資源を活用した学習成果を地域へ還元・発信する。 ・応募作品やコンクール等に積極的に挑戦をさせることで、さらに自信を高めさせる。 ・あおがホタルプログラムへの記述 (目標・振り返り) を充実させる。 		<p>弱みの克服、阻害的要因の回避策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい自分」の目標を具体的にもたせるようにする。⇒「自信の木」へ短冊を貼り、児童の自信が見える化する。 ・「いいとこみつけ」等の取組により、自他のよさを見出す。 ・児童会の自治的な活動を確保する。 ・主体的な学び、個別最適・協働的な学びに向けたICTの効果的な活用をする。 																				